

第2回糸島市総合計画審議会
第二分科会

日時：令和元年8月1日（木）

午後6時30分～

場所：庁議室他

（出席委員）

三谷委員、藤原委員、加藤委員、高野委員、森松委員、鶴原委員、山崎委員

（欠席委員）

浜地委員

1．開 会

2．報告事項

3．審議事項

《部会》

・部会長の選任について

部会長 三谷泰浩委員

・各基本目標における「まちづくりで大切にすること」について

・基本目標3「みんなの命と暮らしを守るまちづくり」について

（事務局より資料に基づき説明）

部会長：

どこからでも結構ですので、キーワードとして不足しているもの、いらぬものがあれば、ご意見頂きたいと思います。

基本目標3の最初に「災害は、いつ発生するか分かりません」とありますが、10年後の糸島市がどうあってほしいかなので、これは必要ないと思います。

事務局：

そうですね。要らないと思います。

委員：

33 ページ、「万一のとき「公助」が開始されるまで」という前提は要りますか。災害時は公助を待っているときだけ自助をするわけではないので、ここの文言に違和感があります。

35 ページの「自立」は、「自律」のほうがいいのではないかと思います。あと、支援を受ける側とする側が固定されたものではなくて、機能が落ちてても、その人なりにできることがあったり、力が発揮できるような地域づくりが大事ではないかなと思います。そういうイメージが湧くような言葉に変えられないかと感じました。

委員：

33 ページの中段に「高齢者や災害弱者などへの手助け」とありますが、災害弱者に高齢者も含まれているので、「要配慮者支援をはじめ、多様性のある配慮に努められるよう」という言葉を入れるといいかなと考えます。また、《まちづくりで大切にすること》の中の「真の意味」という言葉が分かりづらい表現だと思います。これからは多様な主体による防災活動をしていかなければいけないので、そういった言葉を盛り込んでいただきたいと思います。

もう一つ、防災について、今は男性主体でやっているの、女性の視点を入れていくという考え方を入ると、ワンランク上になるのかなと思います。

部会長：

多様な参画については、次の基本目標 4 にも関わるような気がしますし、視点については女性の視点、子どもの視点が必要だと言われています。

委員：

基本目標 4 の政策のキーワードについて、(1)「健康・医療」は、健康寿命や「エイジレス社会」の実現といった言葉や、企業や団体が支援する仕掛け、「マルチステージ社会」など、いろいろなところからの学びを実現するという文言を入れていただきたいと思います。

(2)「高齢者福祉」は、「高齢化に伴う社会的な課題に対応した、全ての世帯が満ち足りた人生を送ることができる地域コミュニティを目指す」という表現も大事ですし、人口減少の中では高齢者だけではなく、全世代対象の地域包括ケアシステムの推進という文言も入れていただきたいと思います。

(3)「障がい者福祉」は、特に障がい者の「就労促進」と「社会参加」が1つのキーワードだと思っています。その中でも、行政だけでなく企業や事業者の理解と協力が大切なので、あらゆる社会資源と協力し合って進めていくことが大事だと思います。また、糸島市に特別支援学校ができるということで、これは障がいのあるお子さんを持つ親御さんの悲願でした。障がいの部分もライフステージに沿った支援を盛り込んでいただきたいと思います。

(4)「地域福祉」について、前段の社会潮流の中に SDGs の話が出ていました。その中にある「誰も見捨てない社会」という言葉も盛り込んでいただければと思います。

部会長：

ただ今のご意見は、政策に盛り込んでいく項目についてでしたが、それを全体的に表すような言葉はありますか。

一つ私が思ったのは、地域コミュニティを大事にしてほしいなと考えています。コミュニティが

崩れると、高齢化社会も崩れていきます。被災後、地域コミュニティが崩れると人が戻れなくなってしまい、まちがどんどん崩れていくということがありますので、「地域コミュニティを大切にしたい」という文言があるといいと思います。

委員：

今回の総合計画の中では、多様な人たちを認め合う社会という言葉を入れたいという気持ちがありましたので、「多様な世代、人々がつながり、認め合い、支え合う、誰も見捨てない地域コミュニティづくりを推進します」というキーワードを考えました。

委員：

糸島は九州大学が移転してきたことで、外国人人口が全体の1%を超えました。そういう意味でも、安心して暮らせるという視点も、多様な視点の中に入ってくると思います。

委員：

こちらの部会としてやるべきなのは、《まちづくりで大切にすること》というところを、多様性のある言葉で、より刺さる言葉にしましょうというのが、今の話ですよね。その次のステップとしては、具体的なところを入れ込んでいくことですよ。

部会長：

そうです。個別の政策の中で、糸島市らしい目標を幾つか上げていくのだと思います。

事務局：

各政策の下に「“1ランク”上の姿」とありますが、委員が言われたことは、ここにも文章的に入ってくるようになります。その総括として、共通するキーワードを《まちづくりで大切にすること》に入れることができればいいなと考えています。もし、そこに入れられなければ、「“1ランク”上の姿」のところに入ってくると思います。

部会長：

今の時点で、この2つをフィックスさせることはナンセンスなので、あとでフィードバックをかける必要があります。

委員：

言葉で言うと、汎用性のある言葉はここで決めなくてもいいと思います。それよりも、糸島に言葉を当てはめたときにどうするか、というところに時間が掛かるのではないかと思います。

部会長：

今日出た意見を事務局がまとめていただく予定ですので、それに期待したいと思います。先ほども出ましたが、「万一のとき「公助」が開始されるまで」という言葉を、「いざ災害が起こっ

たとしても」という言葉に変えるのが適切かなと思います。また、「今までに経験したことがないことが起こったとしても、「自助」「共助」が発揮できること」というのが「真の意味」の意味だと思いますが、いざ、困ったことが起こったとしても、これができますよという意味を前に付ければ、「真の意味で」という言葉を削除してもいいのかなと思います。

委員：

自助というと、人に頼らないというふうに捉えている方がいると思います。ここでも「自らの命は自らで守る“自助”」と言われると、人には頼らないという感じにも取れると思いますので、少し変えたほうがいいと思います。

委員：

我々行政側が、自助力を高めましょうという、責任放棄しているのではないかとわれそうで最初は怖かったのですが、東日本大震災の時に、1週間近く、誰も近寄れない所で人工呼吸器を持たせた人の話などをたくさん聞いて、結局は自助力のあった人が生き残ったのだと感じました。なので、備えるとかスキルを付ける、つながる方法を準備しておくことが重要で、「自助」を言わないほうが無責任だと考えております。しかし、誤解のない表現で「自助」を協調しなければいけないなと思いました。

もう一つ、「互助」という言葉が地域包括のキーワードで、互助力をどう上げるかが、ものすごく大事になってきています。ここでも「互助」という言葉を入れなくていいのかなと思います。

委員：

熊本地震を体験した知り合いがいるのですが、まさしくコミュニティが強いところが早く立ち直ったし、支援も行き渡ったとおっしゃっていました。

部会長：

今はやはり、いかに平常時に災害の準備ができるかということが大切なので、そこは入れてほしいと思います。あとは、伝承、記憶を残すことも大切かなと思います。

委員：

糸島市の将来像、あるべき姿を文言で示すと思いますが、そこに地域コミュニティ関係を入れると、全体に反映されるのかなと思います。

・基本目標4「健康で安心して暮らせるまちづくり」について

部会長：

続いて、35ページについて、ご意見を頂きたいと思います。

先ほども出ましたが、私も「自律」のほうがいいと思いました。また、「個人としての尊厳」という言葉が強いように感じるので、「多様な世代と協調しながら」という言い回しがいいと思います。

また、小さい世代からお年寄りの世代までという文言がどこかに入るといいと思います。

委員：

「世代を超えて支え合う」というのは、いかがでしょうか。糸島の特長として、魅力的な高齢者が多いこともあると思います。それはすごく大事だし、糸島の面白さかなと思っています。

委員：

《まちづくりで大切にすること》というのは、糸島市のまちづくりで大切にすることという意味ですよね。ですから、あくまでも糸島市に沿った文言であるべきだと思います。

事務局：

現在、担当者が政策の部分を作っておりますので、次回には示させていただきたいと思います。今回は全職員で作るということで、若手の職員が重点課題プロジェクトという横串の部分を検討しております。

部会長：

ほかにごいませんか。では、今日はこれで閉会いたします。ありがとうございました。

4．閉会